

Title	地域からのエコツーリズム : 観光・交流による持続可能な地域づくり
Author(s)	敷田, 麻実; 森重, 昌之; 高木, 晴光; 宮本, 英樹
Citation	観光研究, 21(1): 61-61
Issue Date	2009-09-30
Type	Others
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/16845">http://hdl.handle.net/10119/16845</a>
Rights	本著作物は日本観光研究学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Institute of Tourism Research. Copyright (C) 2009 日本観光研究学会. 敷田麻実, 森重昌之, 高木晴光, 宮本英樹, 観光研究, 21(1), 2009, p.61.
Description	



### 敷田 麻実 Asami Shikita

(北海道大学観光学高等研究センター教授、博士(学術))

高知大学農学部卒業後、石川県水産課勤務。その間にオーストラリア・ジェームス・クック大学大学院留学、金沢大学大学院社会環境科学研究科博士課程修了。1998年に石川県庁を退職後、金沢工業大学を経て、2007年より現職。エコツーリズムが社会に与える影響や地域を豊かにする地域マネジメントについて研究している。



### 森重 昌之 Masayuki Morishige

(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程/株式会社計画情報研究所研究員)

金沢大学大学院経済学研究科修士課程修了。シンクタンク研究員を経て、2007年に北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程に入学。北海道内各地をフィールド調査しながら、「どうやって観光・交流による地域づくりを進めるか」について研究している。



### 高木 晴光 Mitsuharu Takagi

(特定非営利活動法人ねおす理事長/黒松内ぶなの森自然学校代表)

北海道大学農学部卒業。“Think locally, Act globally”がモットー。北海道には、人と自然の関わりを考える環境教育にいい素材が多い。北海道らしいエコツーリズムにこだわりながら、協働事業体 NEOS の CEO として、また黒松内ぶなの森自然学校代表として、「人が育つ」をテーマにしたエコサイト=地域コミュニティづくりに精進している。



### 宮本 英樹 Hideki Miyamoto

(特定非営利活動法人ねおす専務理事)

立正大学文学部卒業後、地方新聞記者を経て、1994年に北海道自然体験学校 NEOS に参加。北海道内で地域発信エコツアーを多数コーディネートする傍ら、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山の立ち上げなどを行う。1999年に特定非営利活動法人ねおすの理事に就任し、2003年より現職。

## 敷田麻実編・森重昌之・高木晴光・宮本英樹

学芸出版社、2008年

# 『地域からのエコツーリズム—観光・交流による持続可能な地域づくり』

この度は、『地域からのエコツーリズム—観光・交流による持続可能な地域づくり』に対して学会賞「観光著作賞」を与えていただき、誠にありがとうございます。観光研究の第一線におられる先生方から評価いただいたことを、執筆者一同、大変光栄に思っております。

エコツアーやエコツーリズムという言葉は、1990年代後半から日本でも普及し始めました。この間、エコツーリズムに関する著作がいくつか出版されましたが、その多くは海外の優れた著作の翻訳やエコツアーの事例紹介でした。本書は国内のエコツーリズムについてまとめた最初の本であり、特にエコツーリズム推進法の施行に合わせて出版できたこともあって、エコツーリズムの理解の促進に貢献できたと思います。

本書の特徴は、エコツーリズムを地域づくりのための観光と捉え、「地域」の視点からエコツーリズムの推進について描いた点です。着地型観光をはじめ、地域でツアーをつくり出そうという機運が高まっている中で、エコツーリズムをどのように捉え、どのようなしくみをつくれればよいか、どうすればエコツアーを地域で生み出せるかについて焦点を当てました。

本書では、まず混同して用いられることが多いエコツアーとエコツーリズムを明確に定義するとともに、その誕生から現在までの経緯を世界、国内の両面から整理しました。そして、エコツーリズムの理念だけが先行しないよう、そのデメリットもまとめた上で、メリットを生かしながらデメリットを抑制するにはマネジメントが必要である

ことを訴えています。

こうしたエコツーリズムのマネジメントを実践するため、本書では「サーキットモデル」を用いたエコツーリズムの推進プロセスを提案しました。また、エコツーリズムの実現状態を示すための評価方法も合わせて提示しました。その上で、北海道黒松内町や登別市ふおれすと鉾山の事例を紹介しながら、エコツーリズムの持つ可能性から持続可能な地域づくりへと展開するための地域マネジメントについて描いています。

このように、本書ではエコツアーの成功にとどまらず、エコツーリズムのメリットを生かした自律的で持続可能な地域づくりのプロセスを描きました。そして、地域がこのプロセスを主体的にマネジメントできることを最終目標と位置づけています。

さらに、本書が観光研究者と観光を現場で実践しているNPOの連携でつくり出したという点も特筆したいと思います。これによって、理論と実践の両面からエコツーリズムの推進について考えることのできる1冊になりました。また国内事例や、実践者向けのエコツアーのつくり方を加えることで、エコツアー実践者や観光研究を志す学生にとって、入門書としての役割も果たすことができたと思っております。

最後になりましたが、本書の執筆・出版にあたってご協力いただいたすべての皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も「地域」に軸足を置きながら、さらなる研究・実践に邁進したいと思います。